

藤枝市文学館企画展

文学者が綴った

藤枝の風景

1月6日(土)～2月12日(月)



藤枝市郷土博物館・文学館

未来へつなごう! ～博物館30周年・文学館10周年を迎えました～

〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500番地(蓮華寺池公園内)

TEL 054-645-1100 FAX 054-644-8514 Eメール muse@city.fujieda.shizuoka.jp

■休館日:月曜日(1月8日(月)、2月12日(月)は開館)、1月9日(火)

■開館時間:午前9時～午後5時

■入館料:大人(一般)200円、(団体20名以上)160円

中学生以下及び障害者手帳等をご提示の方と介助者1名まで無料

藤枝市郷土博物館・文学館

検索

開発が進むにつれて、かつて藤枝にあった豊かな自然や町並み、人々の暮らしも次第に新しいものになっていきました。その中には、いつの間にか失われてしまった藤枝の風景や情景もあります。

明治40年(1907)生まれの藤枝静男(本名・勝見次郎)は、大正期の藤枝町市部(現本町三丁目)の町並みを『雄飛号来たる』などの作品の中に描いています。

また、藤枝静男より20年後に、藤枝町長楽寺(現本町一丁目)で生まれた小川国夫も長楽寺界隈を背景として『悲しみの港』『逸民』などの作品を遺しています。

その他、藤枝に生まれた、あるいは藤枝にゆかりを持った文学者たちの文学作品には、今では見ることのできない藤枝の風景が綴られています。

今回の展示会では、このような藤枝ゆかりの文学作品の中に残されている郷土の風景を、直筆の原稿や作品中の文章を引用しつつ、実際の藤枝の写真と比較しながら紹介します。懐かしい風景と共に作品に親しむ機会としていただければ幸いです。



『青銅時代』昭和37年夏



藤枝駅前(昭和初期)
『ふるさとの想い出写真集 明治大正昭和藤枝』より



小川 国夫 おがわ くにお (1927-2008)
静岡県藤枝市本町(旧藤枝町長楽寺)生まれの作家。1950年東京大学文学部入学。大学在学中にフランスへ私費留学。パリのソルボンヌ大学などに籍を置き、この間、スクーターで地中海沿岸諸国を旅した。この体験がのちの小川作品の一つの素地となった。著書に『アポロンの島』『悲しみの港』『逸民』などがある。



藤枝 静男 ふじえだ しずお (1907-1993)
静岡県藤枝市本町(旧藤枝町市部)生まれの作家兼医師。本名は勝見次郎。旧制第八高等学校(現・名古屋大学)在学中に志賀直哉に傾倒した。八高の同級生、本多秋五や平野謙に小説執筆を勧められ、39歳の遅咲きにして処女作『路』を発表し小説家となる。著書に『或る年の冬、或る年の夏』、『空気頭』、『田紳有楽』などがある。

そのほか村越化石、立原正秋、島尾敏雄、司修氏、江代充氏ら藤枝ゆかりの作家の作品を紹介します。

藤枝市郷土博物館・文学館

未来へつなごう! ~博物館30周年・文学館10周年を迎えました~

静岡県藤枝市若王子500番地(蓮華寺池公園内)

TEL 054-645-1100 FAX 054-644-8514 Eメール muse@city.fujieda.shizuoka.jp

文学者が綴った 藤枝の風景

藤枝市文学館企画展



『悲しみの港』



メソジスト教会



藤枝静男白筆原稿『或る年の夏』(浜松文芸館所蔵)

期間中のイベント

新春おやこ人形劇(3回シリーズ)

- 定員 各回80名(要申込)
- 申込み 1月12日(金)から開催日までに電話・FAX・Eメールで郷土博物館へ
- 参加料 3歳以上~中学生100円(3歳未満は無料) 大人300円
- 会場 文学館講座学習室

①人形劇「めっきらもっきら どおんどん」

1月28日(日) 13:30~14:30

- 併演作品 大型紙芝居「せんたくかあちゃん」、
「11ぴきのねこ」、手遊び「ドレミの歌」
- 出演 お母さん人形劇団「星の子」

②あまるの寸劇ショーと豆まき

2月3日(土) 13:30~14:30

- 公演内容 日本の昔話コメディ人形劇、
ジャグリング&大道芸、節分の豆まき
- 出演 演劇パフォーマー「あまる」

③人形劇「わにこの赤ずきんちゃん」

2月11日(日) 13:30~14:30

- 併演作品 「へんがお動物園」、「にんじん・大根・ゴボウ」
- 出演 人形劇団「わにこ」

バレンタインコンサート

季節にちなんだ曲を楽しみませんか

2月12日(月) 14:00~15:00(開場13:30)

- 定員 50名(申込不要、直接会場へ)
- 参加料 大人200円(当日の入館料)、
中学生以下無料
- 会場 文学館講座学習室
- 出演 八木香那永(藤枝市出身の声楽家)

